

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/12

<p>団体名</p>	<p>一般社団法人よだか総合研究所</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>体験格差のある子どもを対象とした、森のユースセンターでの「貸切プレーパーク」事業</p>					
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>					
<p>● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>・児童福祉法および子ども基本法の理念に基づき、揖斐川町および本巣市のすべての子どもに、意見表明の機会が保障され、最善の利益が考慮されている。子どもが意見を言いやすい環境があり、また意見表明のファシリテーターの役目を果たす人がいる。                  ・親の年取や状況に関係なく、あらゆる子どもが豊かな遊びや体験を通じて成長することができる。                  ・上記を実現するための拠点の1つとして揖斐川町にユースセンターが設置され、子どもたちの遊びや育ち、社会参画の拠点として運営されている。                  ・揖斐川町および本巣市に子どもの権利を保障する主体としての自覚が明示され（条例など）、子どもの権利を包含的に実現するための施策を議論し実行している。</p>		<p>貸切プレーパークの様子</p> <p>2023年10月 @むいむいの森・長瀬</p>					
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>・当団体は2022年にこどもの権利や各種法律の理念に基づき、活動地域の子どもや子育ての現状を調査し、可視化して、取るべき政策立案について考察し、書籍としてまとめ、「息の詰まりそうな子どもと立ちすくむ大人のマガジン」として発行した。                  ・さらに、書籍を元に地域の保護者や子どもたち、支援者・当事者団体、行政職員や議員有志との共同学習を進め、それらを基に上記のビジョンを決定した。</p>							
<p>● 団体の活動基盤</p>	<p>● 望ましい人的資源：常勤スタッフ2名および複数名の非常勤スタッフがあり、かついずれのスタッフも継続可能な状態にあること。活発なボランティアや協力者・協力団体が十分いること。条例等の作成や直接請求に際し、行政書士等の専門家が協力者となること。                  ● 望ましい物的資源：食材や工作材料などの消耗品の一部が、地域の住民や企業からの寄付によって得られていること。活動地域の空き家や有休不動産の物件程度が、当団体によって運用されていること。                  ● 望ましい活動資金：自主事業（不動産運用・子どもキャンプ場利用料）と寄付が十分に育っていること。その上で、自治体からユースセンター運用にかかる継続的な委託費・補助費等が支払われていること。                  ● 望ましい情報：関わるすべての人々の安全意識を高める。ステークホルダーに対して適切なタイミング・内容でコミュニケーションを取り、協力を依頼できている。日々定期的に理事やスタッフ間でのふりかえりの時間を確保することで、組織学習を進められている。市民大学の開催やWebページ等を通じて常に地域のこどもの権利に関する情報が手に入り、市民が自分の意見を当団体にフィードバックできる。</p>							
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>					
<p>・地域のさまざまな子どもが普段の人間関係の延長線上で気楽に遊べる場所として「貸切プレーパーク」を5回開催した。開催地は、当団体が開設する森のユースセンター、もしくは協力団体の活動地であった。協力関係にある地域周辺の不登校支援団体、ひとり親支援団体、生活困窮世帯支援団体、フリースクール、保護者会等のコミュニティに対して、終日貸切のプレーパークを提案し、提供した。その結果、受益者や支援者同士で交流できる、豊かな遊びの時間を過ごすことができた。                  ・当団体が主催する市民大学「よだかの学校」で、不登校の子どもおよび（ユースセンターを含む）フリースクール等に対する一般的な支援を目的とするネットワークの設立準備をはじめ、岐阜県内の関心者層のコミュニティを構築した。                  ・貸切プレーパークで得られた反応やフィードバックをまとめ、「安全管理マニュアル」と「メニュー」を開発する。                  ・森のユースセンターのウェブサイトを設置、公開した。</p>			<p>・アウトプット                  （1）貸切プレーパーク                  目標：合計5団体、75人の子ども参加                  達成状況：合計5団体、82人の子ども参加 ▷達成                  （2）政策案の作成、提出                  目標：市民大学ゼミ開催 4回、参加人数60人、政策案提出1本                  達成状況：ゼミ3回、参加人数19人 ▷未達成                  註釈：県単位での施策化を実現するために、県単位の市民ネットワークが必要だと判断し、企画時から方向転換した。ユースセンターのみを政策化するのは支援団体間で不公平感が出るため、不登校世帯への直接給付など公平感のあるネットワークとした。                  （3）広報の強化                  目標：ウェブサイト設置、PV10,000件/年                  達成状況：ウェブサイト設置済、PV5,638件/半年 ▷おおむね達成</p>			<p>貸切プレーパークの様子</p> <p>2024年8月 @根尾川</p>		
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>					
<p>・さまざまな状況にある協力団体との協働を通じて、豊かな自然環境の中での遊びや体験の機会を提供することのニーズや、実際に提供するまでに存在するハードルなどを知ることができた。                  ・当初はユースセンターのみの制度化を目指していたが、より幅広い当事者や支援団体との共通の利益をゴール目標として設定し直すことで、有益なネットワークを構築することができた。また、他地域の事例を通じて、ネットワークの運営における重要な点（共有できる明確な理念の設定、定期的なコミュニケーション、公平で中立的な意見調整役の設置）を学ぶことができた。</p>			<p>・ユースセンターの運営に関して、より幅広い利用者へ、より日常的に、より豊かな体験を提供していくための、プログラム・運営体制・収入基盤の構築                  ・すべての子どもが十分な学びや遊びの機会を得ることの重要性を大人が理解すること、子どもの権利についての理解が浸透すること</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>中山間地域のユースセンター 大幅な運営力強化</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>					
<p>・学校以外で遊びや体験をさせてあげられる機会ができた                  ・岐阜県内の、不登校や引きこもりの家庭、親の会、支援団体、フリースクール等のネットワークができた</p>								